

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

「ホスピタルシアタープロジェクト2019～すべての子どもたちと家族のための多感覚演劇」事業

障がい児が家族や兄弟と同じ空間で ともに笑い、遊び、演劇を鑑賞する

通常の劇場で観劇できない障がい児や医療的ケア児が、家族や兄弟姉妹とともに、周囲に気兼ねすることなくリラックスした環境で、美しく楽しい感覚を刺激する演劇を楽しみ、家族の記憶を醸成する活動に取り組んでいる団体がある。2019年度は12名のアーティスト、スタッフが参加し、都内4ヵ所で計13回の公演を行った。



開催を告知するチラシ



多感覚演劇は都内4ヵ所で計13回にわたって上演

障がいを持つ子どもも健常児もともに 楽しめるインクルーシブな演劇形態

舞台芸術に関連する様々な職業のためのセミナーやワークショップをはじめ、調査研究、情報サービス、コンサルティングなど、舞台芸術に関わるインフラストラクチャー整備を目指して活動が続けているNPO法人「シアタープランニングネットワーク」では、平成22年度から障がい児のための演劇体験事業に着手し、同28年度からは障がい児・医療的ケア児とその家族のための多感覚演劇の事業を展開している。

同団体では2018年度、AJOSCの助成を受け、都内4ヵ所で計12回の公演『白い本の中の舞踏会』を実施した。これは1回の上演を親子6組に限定し、一人ひとりの必要性に寄り添い、反応を引き出すことを目的とした演劇パフォーマンスで、上演にあたっては親とのコミュニケーションの確

保や安全な環境づくりを行うため、事前に子どもの障がいの種類、病名、苦手なものを確認するためのアクセスコーディネーターを置くなど、細心の注意を払った。

そうした取り組みも奏功し、「50組以上の家族と多くの見学者に、障がい児だけではなく、健常児と障がい児がともに遊び、鑑賞し、体験するインクルーシブな演劇のあり方を提示することができたと確信している」と、同団体では分析している。

しかし、「まったく新しい活動形態であるため、まだ周知ができていない。届けるべき人々のもとに届かないというジレンマを抱えている」という反省から、同団体では2019年度もAJOSCの助成を受け、新作の上演に取り組んだ。前年同様、1回の上演を親子6組(兄弟姉妹の数により、最大8組程度)に限定し、アクセスコーディネーターを置くなどの対策をとった。

都内4ヵ所、計13回の公演に57組の 障がいを持つ子どもやその家族が参加

『アラビアの空のかなた—物語が生まれる』と題された新作は、2019年8月から作品づくりや稽古を開始し、10月23日の国立精神神経医療研究センター病院での試演会を皮切りに、12名のアーティスト、スタッフが参加し、11月から12月にかけて、都内4ヵ所で計13回にわたって上演された。八王子市の島田療育センターはちおうじでの公演には12組(31名)、大田区の放課後等デイサービスポジティブでの公演には7組(18名)+見学者8名、新宿区のシャロームみなみ風での公演には21組(60名)+見学者9名、世田谷区のコミュニティカフェななつのこでの公演には17組(37名)+見学者16名が参加し、重い障がいや医療的

ケアを持つ子どもたち、その健常児の兄弟姉妹を含む家族が、周囲に気兼ねすることなく、感覚を刺激される演劇を体験した。また、今回は一部に手話を導入したことで、聾の方々にも喜ばれたという。

最も心を動かされたエピソードとして、「シャロームみなみ風公演の終了後、今回参加された医療的ケア児の中でも最も重い障がいを持つ3歳の女の子のバギーを、3歳と4歳の二人の障がいを持つ男の子がわざわざやって来て寄り添うようにのぞき込んだとき、その女の子の顔がボツと明るくなり、笑顔を見せました。それぞれ重いハンディキャップを持つ子どもたちですが、この子どもたちの中にある友だちという感覚、コミュニケーションに驚かされました」と、同団体の関係者は話してくれた。



子どもたちやその家族は周囲に気兼ねすることなく演劇を体験



ハンディキャップを持つ子どもたちに笑顔を届けた

助成団体:特定非営利活動法人 シアタープランニングネットワーク

<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~tpn>



小規模なNPOが資金繰りに苦しむことなく事業を実施

1公演あたり6家族に限定するホスピタルシアタープロジェクトの公演は、非常に贅沢なプロジェクトに見えるかもしれませんが。経済性の観点からは困難なプロジェクトですが、しかし、この活動が続かなければ、その生涯に一度も演劇を鑑賞することができない子どもたちと家族が確かにいます。継続して手厚いご支援を頂戴できたことに心より感謝しております。

特定非営利活動法人 シアタープランニングネットワーク
代表理事・プロデューサー 中山 夏織さん